第25期第3回常任理事会議事録

日　時　昭和63年12月23日　13：30～17：00

場　所　気象庁第1会議室

出席者　浅井，竹内，河村，松野，岡村，木田，村上，荒川，古賀，中村，能登，村松

議　題

A．報告事項

1. 第25期第2回常任理事会の議事録は一部修正の上承認された．
2. 各委員会報告

「庶務」

資料に基づき報告があった．主なものは次のとおり．

1. 第26回理工学における同位元素研究発表会
   会期：1989年7月3～5日
   会場：国立教育会館（東京霞が関）
2. 学術定期刊行物計画調書を12月5日に文部省に提出した．
3. 1989年日本気象学会会費の請求業務について12月2日に勤務先別一括，また12月12，13，14日に個人別請求書を発送した．
4. TECHNOLOGY JAPAN 89 の協賛名義使用依頼があり承認した．
   会期：1989年4月11～14日
   会場：晴海・東京国際貿易センター
   主催：日本工業新聞社

「会計」

11月の収支状況について，資料に基づいて報告があった．

「気象集誌」

1. 気象集誌の印刷・出版方式変更に当たり，編集要領を変更することについて「天気」にその主旨を掲載する．
   主な変更項目は次のとおり．
   1）学会員外からの投稿
   2）フロッピー・ディスクによる印刷原稿の受け入れ
2. 新しい表紙のレイアウトが決定した．見本が提示された．表紙にあった巻号表現の「Ser. Ⅱ」の部分は廃止することになった．

「天気」

「天気」の中長期計画についての報告があった．

1. 新しい印刷・出版方式の検討を始めた．
2. 1990年から文献紹介を行う．
3. 近く用語解説を復活する．
4. 4月ごろから関連学会の紹介を始める．
   これに関連して国際的組織の IAMAP の紹介の掲載を検討する．

「国際学術交流」

1. 昭和63年12月20日現在の募金状況報告があった．書類手続き中の募金も含めて募金総額は約1850万円である．
2. 基金総額2000万円達成時点で対外的な募金活動は終結することとしたい．
3. 学会員を対象とする募金案内も適当な時期に取りやめる．しかし，別の基金への寄付や，一般的なものは今後も継続して行う予定．
4. 第2回「Atomospheric Science and Application to Air Quality」国際会議（日本気象学会共催）が開かれた．

B．審議事項

1. 新規加入会員の承認
   新規加入，個人会員3名．退会44名が承認された．
2. 1989年度事業計画案・予算案
   明年度の事業計画案・予算案は明年3月の常任理事会で確定する必要があるので各委員会は案を1月15日までに提出するよう要請があった．
3. 正野賞について
   各賞担理事，総合計画理事で作業委員会を設けて検討してきた．2案がでている．内外の優れた研究者を招待して講演をしてもらう Memorial lecrure，もう一つは「正野賞」を設けるというもの．それぞれの長所・短所について討論したが結論はでなかった．さらに作業委員会で検討の上，1月の常任理事会に提出することになった．
4. 極域気象委員会の設立について
   専門分科会として設置することが検討されたが，組織としての性格付け，どのような形態がよいか「総合計画」理事で検討することになった．
5. 1990年度 AGU 総会日本開催について
   12月6日に開かれた国内関連7学協会の連絡会報告が松野理事からあった．

気象学会としては

① 今後の対応は「総合計画」の木田理事が担当する.

② プログラム委員会に委員を出し，気象関連のセッションを設けるよう働きかける.

③ 分担金はある程度負担する.

6. IAMAP について

理事長から次の説明があり審議が行われた.

会期：1993年に IAMAP を日本に招致する.（このことについては1988年度の総会で決定している）季節は8月である. 期間は2週間程度

会場：開催地は東京が有力であるが京都案もあり決定していない.

主催：主催は学術会議と気象学会となるが後援は文部省，気象庁となるものと考える.（国際的には WMO と IAMAP.）

財政：財政的には学術会議からサポートを受けられるが，当学会としては多額の寄付金依存が必要となる.

作業委員会：学術会議気象学研究連絡委員会に IAMAP 作業委員会を設けた. メンバーとして浅井理事長，村上，中村常任理事，廣田，田中，菊地理事が入っている.

審議：1）学術的な面からテーマを検討していくべきである.

2）事務局として，東京開催の場合は気象研究所が候補の一つとなった.

7. 気象集誌

印刷・出版方式変更に伴う Editorial と編集規定の案を検討した. 編集規定では，「気象学及びこれに関連する・・・」の関連分野の例記の内容を広げることとなった.

特に大気化学（物理）と，応用的論文を含むことを明示すべきだとの意見がでた.

8. 評議員会の議題について

正野賞，IAMAP，AGU について審議して頂くことにした.

編集後記：編集委員会では，本誌が会員の御期待にそうよう努力を続けておりますが，皆様の読後感はいかがでしょうか. よい学会誌を作るためには，会員からのよい投稿に俟たなければなりませんが，編集委員会と会員の間の意志の疎通を図ることも大切です. 編集委員会から読者への呼びかけは，毎号の編集後記に書かれますし，各欄の担当者からの声は，本誌35巻（1988年）10月号の「天気投稿案内」に一括掲載されていますので，ぜひ御一読下さい.

編集委員会では，会員からの本誌に対する要望を知りたいと念じておりますが，その把握は容易ではありません. その一助にと35巻10号にアンケートの葉書を挿入いたしました. すでに数十通の貴重な御意見を頂戴しましたが，4000人を越す会員数からみて，会員全体のお考えを推察するにはまだ回収率が低すぎます. 皆様の御希望を生かした会誌を作るために，ぜひアンケートに御協力下さい.

また会員の広場に寄せられた御意見は，できるだけ生かしたいと考えております. 本号に掲載されている「天気に学生参加企画を」という提案も実を結んで欲しいと思います.

本誌に気象学の情報誌としての性格を持たせるという編集方針に則って，最近，1，2年の間に始めた企画は，おおむね定着したようです. そこで，近いうちに関連学会の紹介や用語解説の復活など，新企画を開始するため準備を進めております. また“本だな”をより充実させるようにとの要望も強いので，これにも対応策を考慮中です.

編集は手をかければかけるだけ，よい雑誌ができると言われています. 編集委員や編集書記の方々の並々ならぬ努力の結晶が今日の〝天気〟となっていることを考えると，よりよい会誌を作るためにも，会員の皆様の一層の御協力をお願いしたいと思います.

（編集委員長）